

【Q&Aコーナー】

Q：分野A「マネジメント力」⑥「情報の活用」と分野C「保育実践力」③保育研究・保育改善を推進する実行力（ICTを含む）の違いは何ですか。

A：次のような分類でお考えください。

①先生方がパソコンで記録を打ち込む、メールを送る、HPをチェックする、という園務処理の活用での場合。

→Aマネジメント力③園経営への参画で評価。

②情報モラルや情報セキュリティについての理解や保護者へ理解啓発を図る場合。

→Aマネジメント力⑥地域人材や資源、情報の活用で評価。

③保育の中で情報機器を活用する場合。

→C保育実践力③保育研究・保育改善を推進する推進する実行力（ICTを含む）で評価。

「保育の中での乳幼児の直接的な体験をより充実させていくための情報機器の活用」とは

例：・園庭で見付けた虫をカメラで接写して肉眼では見えない体のつくりや動きを捉えたりすることで、直接的な体験だけでは得られない新たな気づきを得る。

・自分たちで工夫してつくった音などを聴いて遊びを振り返ることで、体験で得られたものを整理したり、共有したりする。

・体を使った活動や演奏の前などに、それらを映像で視聴することで、イメージをもちながら見通しをもって取り組んだりする。

要領解説に『乳幼児期は直接的な体験が重要であることを踏まえ、視聴覚教材やコンピュータなど情報機器を活用する際には、園の生活では得難い体験を補完するなど、園児の体験との関連を考慮すること』とあることから、情報機器を使用する目的や必要性を自覚し、活用することが必要です。

Q：分野B「専門的指導力」②「園の弾力的な運用」という言葉が難しい。弾力的な運用とはどういうことですか。

A：地域の実態や保護者の事情とともに、乳幼児の生活のリズムを踏まえ、一日の自然な流れを作り出すことが重要です。例えば次のようなことも弾力的な運用です。

例：・預かり保育を毎日希望する場合又は週の何日かを希望する場合、あるいは、幼稚園の設定した終了時間よりも早く帰ることを希望する場合など様々なケースが考えられるが、できるだけそれぞれの要望に応えるよう運用を図る。

・乳幼児が心身の負担が少なく、無理なく過ごすことができるよう、乳幼児の生活のリズムに配慮する。

Q：「“問い”を発する子ども”の育成”について理解ができません。どのようなことですか。

A：本県では、2011年度から主体的・対話的で深い学びにつながる“問い”を発する子ども”の育成に力を入れてきました。“問い”を発する子ども”とは、「問題を発見し、他者との関わりを通して、主体的に問題を解決していく子ども」です。これは、就学前教育の基本である、環境を通して行う教育・保育の中で求める子どもの姿、「身近な環境に主体的に関わり、環境の関わり方や意味に気づき、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりする姿」と重なります。

参考：令和5年度学校教育の指針（P10～11）、アクションプログラムⅡ（P19～20）に記載されていますので、お読みになってください。

Q：「探究型保育」とはどのようなことですか。

A：「子どもが興味・関心を抱いたことに主体的に関わる中で、気付いたり、試行錯誤したり、考えたりしながらしたい遊びや生活に取り組めるよう支える保育」とお考え下さい。

Q：分かりにくい言葉があります。

A：互 恵 性～互いに特別の便宜や利益を与え合うこと。

(双方の子どもの育ちや学びにメリットがある。)

分 掌～仕事・事務を手分けして受けもつこと。(園内での自分の分担等)

自己研鑽～自らの知識やスキルを向上させるよう、自分で努力すること。

建 設 的～物事を前向きに、現状をよりよくしていこうとする姿勢で臨む様子。

Q：言葉の意味の捉え方に難しさを感じます。

A：1～3年目の到達目標から順に読むことで意味が捉えやすくなります。

Q：危機管理について、どんな事故等（種類）がありますか？

A：安全な教育及び保育の環境を確保するため、乳幼児の年齢、場所、活動内容に留意し、事故防止に努めなければなりません。事故には、重大事故から不審者侵入等様々あります。

例：・災害（火事や地震等） ・不審者侵入 ・乳児の睡眠時の窒息リスク
・プール遊びや水遊び ・誤嚥等による窒息リスク ・食物アレルギー
・熱中症 ・害虫 等

詳しくは、平成28年3月発行

『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン

【事故防止のための取組み】～施設・事業者向け～』を参考にして下さい。

Q：園での自分の立場では実施が難しい分野や、到達目標が高い分野があり、活用しにくいです。

A：経験年数にこだわらず、自分の立場や状況、業務等に応じて、キャリアステージを選択することも可能です。また、分野毎に違うキャリアステージを選択し、活用していく方法も考えられます。

Q：「適切な」の言葉に迷います。何をもちって適切と判断してよいのでしょうか？

A：自己評価後、管理職等との面談等で他者評価してもらうことで、「適切」だったかどうか判断できるのではないかと考えます。面談や話し合い等で、ぜひ御活用ください。

Q：0～2歳児までが在籍する園です。小学校との円滑な接続などに関して、どう記入すればよいか迷います。

A：それぞれの年齢において、「育みたい資質・能力」を支える保育をしていくことが、小学校教育との円滑な接続の下支えになります。従って、指導計画については、「学びや育ちの連続性を意識した指導計画の作成」と捉えましょう。

交流・連携については、近隣の幼稚園等との交流・連携と捉えることも可能です。実践していない園は記入しなくても結構です。

Q : 「交流及び共同学習」とありますが、どのようなことですか？

A : 障害のある子どもと障害のない子ども、あるいは地域の障害のある人とが触れ合い、共に活動することです。例えば、特別支援学校の幼稚部、近隣小学校の特別支援学級などの児童との交流が考えられます。共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むよう努めることが大切です。